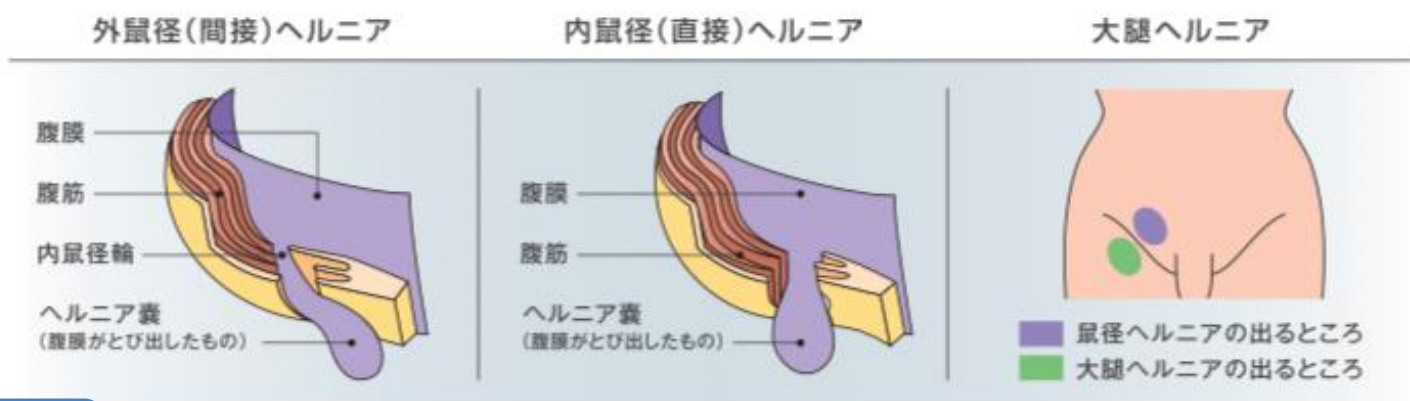


鼠径ヘルニアとは・・・

^{そけい}鼠径ヘルニアとは、腹壁の弱い部分から臓器(腸など)が脱出し、足の付け根(鼠径部)が膨らむ状態で、「脱腸」と呼ばれています。子供と成人とで原因は異なります。子供の場合は先天的なものが大半です。成人は歳をとって身体の組織が弱くなるために起こることが多く、中年以降に多く見られます。成人鼠径ヘルニアは原則手術が必要となります。

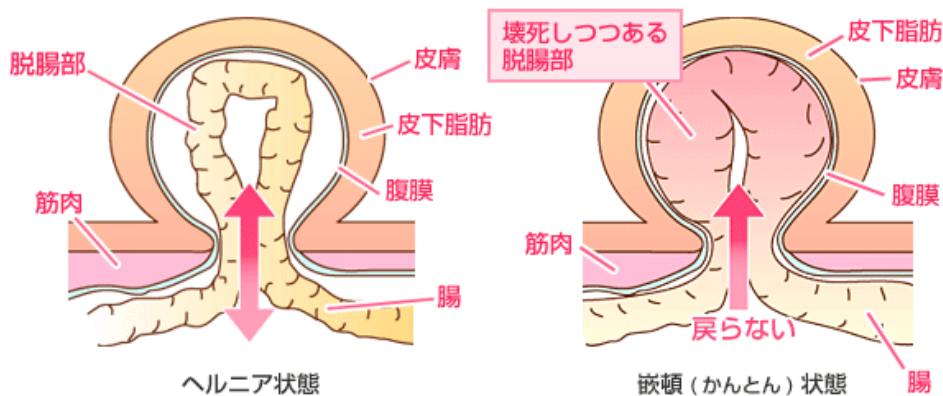


症状

立った時やお腹に力を入れた時に足の付け根に柔らかい膨らみが触れます。小腸などの臓器が出てくると、不快感や痛みを伴います。

嵌頓状態

臓器が飛び出したまま戻らない場合を嵌頓状態^{かんとんじょうたい}といいます。すぐにはさまった腸を元に戻さなければ腸が腐ることもあるので、緊急手術が必要となります。



鼠径ヘルニアを治すには？

ヘルニアは自然に治ることはなく、放っておくと徐々に大きくなります。根治できる治療は、手術だけです。

鼠径部手術（前方到達法）

・麻酔は**全身麻酔(ラリンジアルマスク)**です。声門の手前（喉頭）で気道確保する方法で、気管内挿管（声門から気管にチューブを挿入）より体に優しい（低侵襲）麻酔法です。（*全身麻酔が困難な場合は腰椎麻酔を行います。）

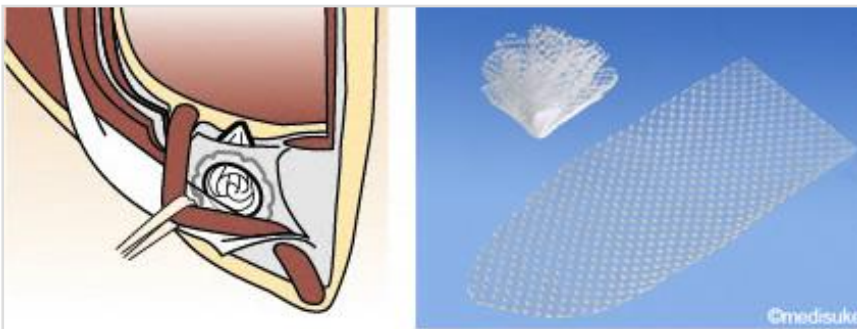
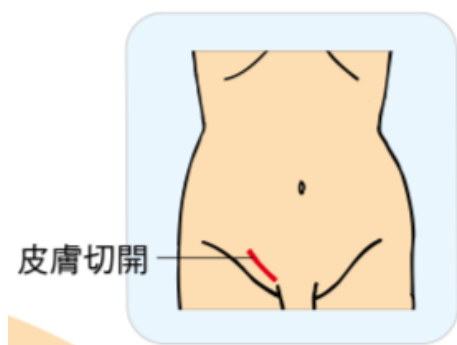
・下腹部の皮膚を6cm程度切開します。

・ヘルニアが出てこないように、**人工補強メッシュ**で穴を覆い弱くなった組織を補強します。穴を縫い閉じないのでつっぱり感が少なく、再発率も低下します（約1%）。メッシュは体に害はありませんが溶けずに体に残ります。

・覆い方により2つの術式があります。

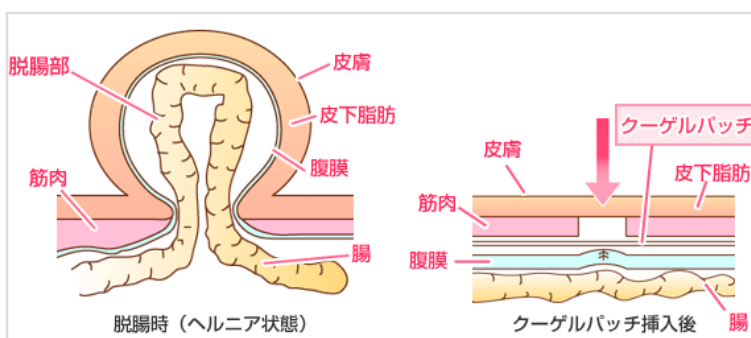
メッシュプラグ法

プラグ（バドミントンの羽根の形のメッシュ）を穴の前から入れてメッシュで覆ってヘルニアの出口を塞ぐ方法です。



クーゲル法

楕円形のメッシュで穴の内側から腹膜を覆う方法です。



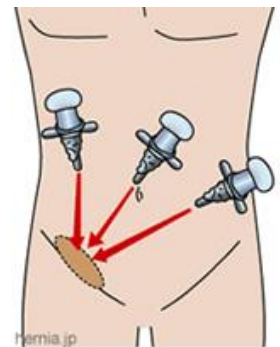
腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術は 1990 年代から本邦に導入され、当院でも 2014 年から導入しており、**現在、ほとんどの症例で行なっています。**
アプローチの方法から腹膜内到達法（TAPP）と呼ばれています。

▷麻酔は通常の**全身麻酔（気管内挿管）**で手術を行います。
（*前立腺治療後や全身麻酔ができない場合は、この手術は適応外です。）

▷臍に 2cm、その左右に 5mm の計 3ヶ所に小さな皮膚切開を加えてポートを挿入します。鼠径部の手術と同様に、ヘルニアの穴を腹腔内（お腹の中から）メッシュで覆い固定します。

▷ヘルニアを起こしている部位（穴）をお腹の内側からカメラで直接観察できるため、ヘルニアの診断が容易でより確実な手術ができると言われています。



従来の手術と比較して

- ・傷が小さいため、整容性にメリットがあります。
- ・術後疼痛や、再発率が少ない傾向にあります。
- ・お腹の中から覗くため**反対側の（症状のない）ヘルニアも観察**できます。
- ・反対側にヘルニアがあった場合は、**同じ傷口で同時に治療**できます。

手術後に気をつけること

* 痛み

数日間は発熱、創部の痛みがあります。痛み止めを使用しますが我慢出来ない場合は医師に相談してください。

* 傷の処置

菌が繁殖しない様に、創部はできるだけ清潔に保ってください。

* 慎重なケアが必要な場合

* 糖尿病、心臓疾患等の基礎疾患がある方は、合併症を起こしやすい傾向にあり、手術後もとくに注意が必要です。不安なところがあれば医師に相談して下さい。

* 退院後の日常生活

普段通りの日常生活や仕事を送っていただけますが、医師の指示があるまでは湯船への入浴は控えて下さい。

手術直後はメッシュが動きやすいため、術後1ヶ月間は激しいスポーツや負荷のかかる運動は控えましょう。



よくある質問

Q. 薬で治療できますか？

薬では治療できません。

Q. 体を鍛えればヘルニアは治りますか？

いったん出来ると自然には治らず、基本的に手術しないと治りません。多くの場合、年齢に伴う変化なので体を鍛える訓練などで改善はせず、隙間が残っている限り、また出てきてしまいます。

Q. ヘルニアバンドで治りますか？

一般に「ヘルニアバンド」という腸の飛び出しを抑える装具が市販されています。バンドを装着している間は押さえることができるかもしれませんが、ヘルニア自体が治ることはありません。

Q. 反対側にも鼠径ヘルニアが発生しますか？

腹腔鏡でお腹の中から観察すると、症状のない反対側にもヘルニアが発生していることがあります。腹腔鏡手術の場合は、反対側にヘルニアを見つけたら、同じ傷で両方のヘルニアを手術することができます。

腹腔鏡以外の手術の場合は、症状のあった側の手術後に、腹圧の逃げ場がなくなるため、数年後に反対側よりヘルニアが出現することがあります。

その際には改めて反対側の治療させていただきますので外来受診のうえ、主治医に相談してください。

「ヘルニアかも？」
と思われる方は、お気軽に
ご相談にいらして下さい。

